国際海事展「KORMARINE2025」の会場から

下関市総合政策部国際課
（釜山広域市派遣職員）
原田　亜太留

皆様、こんにちは。釜山広域市派遣職員の原田です。

10 月 21 日から 24 日にかけて、韓国の産業通商資源部や釜山広域市ら複数の主催で、世界有数の海事展示会である KORMARINE2025 が釜山広域市海雲台区にある BEXCO にて開催されました。本展示会は 2 年に一度開催され、延べ面積は約 40,000 ㎡、40 カ国 900 社 1,900 ブース（2023 年実績）の出展がある大規模な内容です。BEXCO は大きく分けて 2 つの展示場がありますが、その両方を使用して行われました。

釜山は日本に近いという地理的条件もあり、古来より日本との交易の拠点となっている都市です。対馬まで約 50km しか離れておらず、気象条件の良い日は肉眼でも確認でき、下関市や福岡市とは直線距離で約 200km という場所に位置しています。また、釜山港は世界第 7 位のコンテナ取扱量を誇る国際貿易港であることから、本展示会では、造船関係の企業を中心に多くのブースが出展されていました。展示会での取扱商品も様々で、大型船の組み立てを行う企業、大型エンジンを製造する企業、手のひらサイズのギアなど比較的小さな部品を製作する企業など、本当に多種多様な展示が一堂にされている様子が壮観でした。

日本の企業は、「JAPAN PAVILION」と銘打たれたエリアを中心にブースが配置され、活躍している様子を見ることができました。ここでは、推進スクリューに繋ぐ減速機、各種装置を制御するための計器類、小型船舶に用いるエンジンに使用する部品などが展示されていました。

他の諸外国では、コンテナ取扱量が上位の港を多く抱える中国企業の出展が大変多かったことが印象的でした。中国は新規造船の竣工量で総トン数、隻数ともに世界一です。また、イギリスやドイツ、ノルウェーなどヨーロッパの企業からの出展も多く見られました。国際展示会にふさわしく多様な人種の方々がいる様子を会場で目の当たりにし、展示会全体を通して、開催規模もさることながら、船舶には本当に多くの部品が必要であることを実感しました。

古くから船は、大量輸送手段として世界中で多くの人々に利用されてきましたが、それは現代でも変わっていません。国際港湾都市としての「釜山」が、世界の中でこれからも重要な立ち位置であり続けるという姿勢を感じさせる展示会でした。

JAPAN PAVILION の様子

技術革新についての説明ブース